



ヨツボシトンボ。
この名を聞いて「トンボ」ということは分かって、名前や姿を知っている方は少ないかと思えます。

ヨツボシトンボはヨシなどが生えている浅い池沼などに生息していますが、近年生息環境の減少によって数が減っている種です。黄土色をした、太短いずんぐりむっくりした体型のトンボです。カッコイイというよりは愛嬌のある種です。

今年の初夏、滋賀県で本種の移植調査をする機会がありました。具体的には、A池で本種の雌が産卵に来たところを捕獲して卵を取り、その卵を別のB池に移す、といった内容のもので、今までにトンボの卵の移植などやったこともなく、不安を抱えながらも「絶対成功させてやる！」と勇んで現地に向かいました。目指すA池に到着するともう既に沢山の雄の姿が見えますが、雌の姿は見えません。待つこと1時間余り。ようやく雌が飛んできました。まず近くにいた雄と交尾をし、その後産卵が始まりました。「今だ！」と縄を振り、何とか捕獲。この時が捕獲しなければならぬ瞬間で、捕獲にもたついていると産卵を終えて飛び去ってしまうし、また逆に雄

ある日のフィールド・ノートから

生態をのぞく

と交尾をする前に捕獲してしまうと無精卵をとってしまうハメになります。そして雌を移植用の水を入れたケースの所へ持って行き、腹部の先をそっと水につけると、いとも簡単に卵をポトポトと産んでくれました。だいたい数分で産卵は完了しました。この日は6個体の雌が飛んできましたが、そのうち2個体は捕獲に失敗。足場は悪く、膝まで埋まってしまう程ぬかるみがひどいため、せっかく雌が飛んできてそこに辿り着けなかったり、足をとられて身動きできなくなったりと悪戦苦闘。そうこうしているうちに雌が産卵を終えて飛び去ってしまった時の悔しさと空しさといったら……。そして卵を持って移植先のB池へ辿り着き、何とか無事に移植をすることが出来ました。

池で動かずにじっとしているだけで、ほんの一部に過ぎませんが、こ

の池のヨツボシトンボの生態をのぞくことが出来ました。雄1個体当たりの縄張りの広さは個体差は

あるものの、縄張りの監視場所を中心に、概ね半径1~2m程度の範囲であること、雌の産卵は午前10時から午後2時の間に限って行われ、特に午前11時30分から午後12時30分の間に集

中的に行われることなど。

今度の冬に移植先で無事に孵化し、ヤゴとなって生育しているかを確認しに行くことになっています。移植先の環境にも馴染んでくれるだろうか、と心配しつつも、沢山のヤゴが元気な姿を見せてくれることを願ってやみません。

そのほかヨシにしがみついて無心に餌をほおばるスジエビやアメリカザリガニの姿、わずか5mくらいしか離れていない所を3頭のタヌキがノコノコと歩いていく光景も見ることが出来ました。

普段、昆虫の調査をしていると、自分からあちこち動き回って見つけ出すことばかり気をとられがちですが、動かずにじっとしていると、いつもとはまた違った世界が見えてきます。

(本社自然環境室・宇山浩彦)

編集後記

台風がくると、河川が増水する。ときには大きな被害をもたらすこともあるが、わくわくしてしまうのは僕だけであろうか。それは、水が引いた後に大きな水たまりができ、たくさんの魚やエビなどであふれることがあるからだ。普段はまず見ることでできない光景である。いまでも僕の穴場にしていた多摩川の河原の大きなくぼみはあるだろうか。次の台風の後には行ってみようなどと考えた5号台風一過の午後であった。(本社企画室・中村兼吉)

台所の流しの片すみでふやけていたあずきから芽が出ている。水を張った小皿に移したら、ヒョロヒョロと20cmほど伸びた。葉っぱも3枚開いた。いいぞ、このまま『ジャックと豆の木』だ…と期待していたのだが、お豆ひと粒ではやはり限界があった。でもしばらく楽しかった。今度はだいでやってみようかな。(本社企画室・南谷佳世)

News Letter NO.4 1996年7月

【発行】……………株式会社地域環境計画
編集 南谷佳世・中村兼吉・西邑恵子
東京本社
〒154 東京都世田谷区桜新町 2-22-3 NDS ビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口……………逸見一郎
大阪支社
〒569-11 大阪府高槻市古曽部町 1-1-8
TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184
営業窓口……………中山香代子・津田洋子